

指導と評価の年間計画 現代文 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
現代文 B	3年	2	現代文 B (数研出版)	クリアカラー国語便覧 (数研出版) 新現代文単語 (いいずな書店)

科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
-------	--

学習活動	<p>①授業 講義、質疑応答の形で授業をすすめることが中心となります。意見発表やスピーチ、図書館やインターネットを使つてのグループでの調べ学習やプレゼンテーションや、感想文、小論文を作成することもあります。語彙などの基礎力の定着を確認するための小テストなども行います。</p> <p>②家庭学習 考えを深めたり、語彙力を高め、定着させるために漢字・語句の意味を調べたり、教材を音読して要約を書くなどの予習をします。授業後のノートの整理、理解したことのまとめ直しなどの復習もします。早い時期から予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。 また、幅広いジャンルの文章に触れるために自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。夏や冬の休業中にもワークブック課題があり、テスト等で自学自習の成果を確認します。</p> <p>※読書のすすめ 国語力だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めるためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけることによって、文章に読み慣れると同時に、広範な知識や情報を得ることを心がけましょう。</p> <p>④定期考査、実力テストの活用 年間4回の定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、年間4回の実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。</p>
------	--

評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価	○受講・発表態度の観察 ○自己評価	○定期考査 ○課題の点検 ○自己評価	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検

年間指導計画（現代文B）

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■ 評論（一）知識社会という幻想 「文化が違う」とは何を意味するのか？</p> <p>■ 小説（一）舞姫</p> <p>■ 評論（二）「である」ことと「する」こと</p> <p>■ 評論（三）顔の所有</p> <p>■ 小説（三）檸檬</p>	<p><input type="checkbox"/> 文脈を考えながら語句・表現を読み取る。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 共感・疑問・思索などとおして自分の考えを深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 場面や状況、登場人物相互の関係をとらえる。</p> <p><input type="checkbox"/> 登場人物の心理を場面ごとに追い、その変化をとらえる。</p> <p><input type="checkbox"/> 主題をとらえて、人間の心理に対する理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 文脈を考えながら語句・表現を読み取る。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆者のものの見方、考え方を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 共感・疑問・思索などとおして自分の考えを深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 場面や状況、登場人物相互の関係をとらえる。</p> <p><input type="checkbox"/> 情景や登場人物の心理を場面ごとに追い想像力を働かせて読むと同時に、その変化をとらえる。</p> <p><input type="checkbox"/> 主題をとらえて、人間の心理に対する理解を深める。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<p>■ 問題演習（マーク問題含む）</p>	<p><input type="checkbox"/> 文章の構成や段落相互の関係を的確にとらえる。</p> <p><input type="checkbox"/> 本文の展開に即して筆者の主張を理解し要約する。</p> <p><input type="checkbox"/> 文章の主題理解・要点把握に重点を置き設問を解くことで、評論では筆者の主張を小説では登場人物の心情の展開を、的確に把握する。</p> <p><input type="checkbox"/> 速度や時間配分についても考えて解答する。</p>	<p>問題ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、演習を通じて5つの観点について評価をおこなう。</p>
備 考			

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 古典 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
古典 B	3年	文系 4 理系 3	高等学校 古典 B (第一学習社)	クリアカラー国語便覧 (数研出版) 体系古典文法 (数研出版) 新明説漢文 (尚文出版)

科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習活動	<p>①授業 音読、朗読、暗唱で古典作品の持つリズム、テンポを体感し、身につけます。古典特有の語彙、古典文法、訓読のきまり、漢文句法などの読解のための基礎的事項を、ドリルトレーニングや小テストで徹底します。基礎的事項習得の確立と並行して、作品の分析解釈を講義、質疑応答形式で学習していきます。作者の考え、主題などについてグループや個人で調べて発表するほか、レポートを作成してもらうこともあります。</p> <p>②家庭学習 現代文分野以上に家庭学習での予習が大切になります。古文は、音読し、ノートに本文を書き写し、品詞ごとに区切りをいれながら現代語訳をしていきます。漢文は、音読し、書き下し文を書き、現代語訳をします。辞書も活用します。授業内容の整理のためにその日のうちに復習し、予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。また、自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。長期休業中にもワークブック課題があり、休み明けには課題テストで自学自習の成果を確認します。</p> <p>問題演習では、本文中の記述をもとに根拠を持って解答を導くという姿勢を徹底して身につけ、作者の主張や登場人物の心情を、的確に把握する力を養っていきます。</p> <p>※定期考査、実力テストの活用 年間 4 回の定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、年間 4 回の実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。</p>		
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	<input type="checkbox"/> 受講・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 授業ノート・課題の点検 <input type="checkbox"/> 自己評価	<input type="checkbox"/> 定期考査 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 受講・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 課題の点検	<input type="checkbox"/> 定期考査 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 受講・発表態度の観察 <input type="checkbox"/> 課題の点検

年間計画（古典B） ※は文系のみ

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 説話 発心集 今物語 十訓抄 ■ 随筆（一） 枕草子 ■ 物語（一） 源氏物語 ■ 物語（二） 大鏡 ■ 日記 蜻蛉日記 紫式部日記 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 省略されている主語や目的語を把握して話の展開をたどる。 <input type="checkbox"/> 登場人物の心情、場面や情景を理解する。 <input type="checkbox"/> 筆者のもの見方、考え方を理解する。 <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分なりの考えを深める。 <input type="checkbox"/> 敬語法を理解して、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できるようにする 	単元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 逸話 ■ 古代の史話 ※ ■ 宋・元代の文章 ※ ■ 漢詩の鑑賞 ■ 史記の群像 ■ 道家・法家の思想 ※ ■ 明代の文章 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 漢文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 文中に用いられている語の文脈における意味を正確にとらえて、文章の内容を的確に読み取る。 <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 <input type="checkbox"/> 漢詩のきまりを理解し、うたわれている情景と心情とを関連付けてとらえる。 <input type="checkbox"/> 作品に描かれた人物、心情、情景などを自分なりに読み味わう。 	
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 問題演習（マーク問題含む） 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文は文法事項、漢文は句法・用字法の把握に重点を置いて設問を解くことで、文章の主題を理解し、筆者の主張や登場人物の心情を、的確に把握する。 	問題ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、演習を通じて3つの観点について評価をおこなう。
備 考	文系古典4単位のうち、古文2単位、漢文2単位、理系古典3単位のうち、古文2単位、漢文1単位、として学習します。		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 日本史 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
日本史 B	3 年	3 単位 または 4 単位	詳説日本史（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 日本史重要語句 Check List（啓隆社） 改訂版詳録新日本史史料集成

科目の目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<p>①授業はプリント学習を中心に行います。その際、より理解度を高めるために史料集や図説なども用いて学習を行います。</p> <p>②基本は復習です。週末ごとに1週間の内容を、必ず教科書を読みながら復習しましょう。その際に、出来事・人物にのみ着目せず、時代背景や当時の価値観にも注目し、その時代のイメージをつくり、流れで捕らえましょう。教科書に必要な内容は書いてあります。</p> <p>③覚えることは不可欠ですが、歴史事項の関連性を常に意識することが、授業でも復習でも大切です。</p> <p>※書物やテレビなどにおいて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	歴史的事象の仕組みや人間との関わりについて関心を持ち、積極的に課題を追求しようとするとともに、授業においてプリント教材を積極的に仕上げる。	歴史と人間との因果関係を多方面から分析し、国際社会の変化と関連づけて理解する。また、今後の社会における課題の解決方法を考察し、判断する。	史料の内容を理解するだけでなく、その史料が編纂された歴史的背景についても考察し、発展的に歴史の流れを判断できる。	歴史の系統的知識を身につけ、総合的観点から歴史の流れをとらえることができる。また、授業における発問に対しても積極的な取り組みができる。
評価方法	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 課題への取組	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 定期考査	<input type="checkbox"/> 授業状況の観察 <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/> 課題への取組	<input type="checkbox"/> 課題への取組 <input type="checkbox"/> 定期考査

年間指導計画

学期	単元	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第Ⅲ部	第8章 幕藩体制の動揺 (1)幕政の改革 (2)宝暦・天明期の文化 (3)幕府の衰退と近代への道 (4)化政文化	<input type="checkbox"/> 商品経済の発展に伴う農民層の分解と農村における商品生産の拡大という構造的な変化により幕藩体制の動揺が起こり、農民への負担増、百姓一揆・打ちこわしの頻発となっていくことを理解できる。 <input type="checkbox"/> 文化の大衆化と普及を出版技術の発達、教育の普及の面からも理解できる。 <input type="checkbox"/> 欧米諸国のアジア進出による国際環境の変化と開国により幕藩体制が崩壊へと向かう過程をとらえ、近代社会がどのように形成されていったかを理解することができる。	単元ごとに、「学習活動」①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第Ⅳ部	第9章 近代国家の成立 (1)開国と幕末の動乱 (2)明治維新と富国強兵 (3)立憲国家の成立と日清戦争 (4)日露戦争と国際関係 (5)近代産業の発展 (6)近代文化の発達	<input type="checkbox"/> 日清・日露戦争を経て東アジアで日本が台頭していく過程を、政治・経済・社会と多面的に考察しながら、日本と他国との関係をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 欧米文化と伝統文化が絡み合って近代日本の文化が形成されたことを理解できる。	
後期	第Ⅳ部	第10章 二つの世界大戦とアジア (1)第一次世界大戦と日本 (2)ワシントン体制 (3)市民生活の変容と大衆文化 (4)恐慌の時代 (5)軍部の台頭 (6)第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 (1)占領と改革 (2)冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 (1)55年体制 (2)経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 (1)経済大国への道 (2)冷戦終結と日本社会の動揺	<input type="checkbox"/> 第一次世界大戦による、国際社会における我が国の地位の向上と、大戦が社会・経済に及ぼした影響の概略をとらえて、ワシントン体制下における我が国の国内外の動向を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 満州事変により国内の政治的、経済的な危機打開がはかられる一方、それに伴い政党政治は終焉し、国家主義の高揚とともに国際社会において日本が孤立化していく経緯を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 日本のファシズム体制の進行を背景に、中国侵略その後の太平洋戦争の遂行と国民生活の崩壊の様子を理解できる。 <input type="checkbox"/> 日本の独立・占領政策の変遷を、冷戦構造を中心とした日本を取り巻く国際情勢の変化の中で理解することができる。 <input type="checkbox"/> 二極構造の世界を背景に55年体制が成立し長期の安定保守政権が続く一方、日本経済は高度経済成長に突入し、国民の生活が著しく変化をしていく過程を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 高度経済成長が終わり安定成長の時代に入った日本が、冷戦終結後の世界情勢の変化を受けていかなる立場に置かれているのか、現代に生きる日本人として、今後の日本について考察することができる。	単元ごとに、「学習活動」①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 世界史 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
世界史 B	3 年	3 or 4	詳説世界史 (山川出版社)	世界史 B 用語集 (山川出版社) アカデミア世界史 (浜島書店) よくでる一問一答世界史 (山川出版社)

科目の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<p>① 授業は、予習をしてきたうえで単元ごとに探究したい課題・問いを設定し、教科書や資料集などを用い、班学習などを通じた探究活動を中心に進めます。重要事項の補足としてプリントを配布しますので、予習・復習時に教科書・資料集を活用して空欄補充をしておくこと。</p> <p>② 授業プリントの空欄補充などを教科書・資料集を活用しておこない予習、復習をします。</p> <p>③ 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり問題集を解くなどして知識の定着を図ります。</p> <p>※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の大きな枠組みと流れをとらえることにより、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に判断する。	世界の歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、世界の歴史を我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	単元	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第Ⅲ部	<p>第9章 近世ヨーロッパ世界の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重商主義と啓蒙専制主義 ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・17～18世紀ヨーロッパの文化と社会 <p>第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン 	<p>□17～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。</p> <p>□ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。</p> <p>□17～18世紀におけるヨーロッパ文化の特色と、それを生み出した社会状況を理解する。</p> <p>□イギリス産業革命の背景と展開、産業資本主義体制の確立とその影響について理解する。</p> <p>□アメリカ独立革命の経過と、独立が近代民主政治に与えた影響を理解する。</p> <p>□アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する。</p>	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

		<p>第11章 欧米における近代国民国家の発展 ・ウィーン体制の成立 ・ヨーロッパの再編 ・南北アメリカの発展 ・19世紀欧米の文化</p> <p>第12章 アジア諸地域の動揺 ・西アジアの変容 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動</p>	<p><input type="checkbox"/>ウィーン体制の成立と、その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編、イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程、ロシア・オーストリアの皇帝主導の近代化を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>19世紀の欧米文化の特徴とその成立の背景を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン・アフガニスタンの動向を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>インドの植民地化とその社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。</p>	
後期	第IV部	<p>第13章 帝国主義とアジアの民族運動 ・帝国主義と列強の展開 ・世界分割と列強対立 ・アジア諸国の改革と民族運動</p> <p>第14章 二つの世界大戦 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカ地域の民族運動 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・第二次世界大戦</p> <p>第15章 冷戦と第三世界の独立 ・戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 ・米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ・第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り ・石油危機と世界経済の再編</p> <p>第16章 現在の世界 ・社会主義世界の変容とグローバル化 ・途上国の民主化と独裁政権の動揺 ・地域紛争の激化と深刻化する貧困 ・現代文明の諸特徴</p>	<p><input type="checkbox"/>帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20世紀の変動の機転となったことを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>中国や東南アジア諸国、インド、トルコや西アジア諸国、アフリカの民族運動の展開を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から、国際的な緊張が高まる時代を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大、米ソの国際的地位の高まりを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>第二次世界大戦後、米ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から、日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>戦後の20年間に段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し、発言力を強めたことを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>米・ソの両大国の動揺と国際的な影響力の減退を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>ドル＝ショック、オイル＝ショック以降の国際経済の再編、冷戦の終結への流れを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>東欧社会主義圏の消滅とソ連邦の解体、1990年代の情報技術革命とグローバル経済の進展を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>途上国の民主化の進展と、アジア社会主義国家の変容を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>科学技術の発達と現代文明の抱える危機、現代思想や文化の特徴について理解する。</p>	<p>單元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
	演習	まとめと演習		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
地理B	3年	文系4 理系3	新編詳解地理B（二宮書店） 詳解現代地図（二宮書店）	新編地理資料2018（とうほう） 2018データブック・オブ・ザ・ワールド （二宮書店）

科目の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学習活動	<p>① 授業は単元ごとに課題、問いを設定し、諸事象について探求していくことを行います。</p> <p>② ワークを用いて用語の予習を行い、基礎知識の定着を図ります。</p> <p>③ 単元ごとのまとめや、問題集を用いて知識の定着を図ります。</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておくことが、地理の学習の深化に繋がります。社会の変化にも目を向けてみましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	○現代世界の地理的事象を系統地理的に、また現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識や地理的見方・考え方に関する関心と課題意識を高めたか。それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きるための責任を果たそうとしたか。	○現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的に、また歴史的背景を踏まえて地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しようとしたか。	○地図や統計、画像等の地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択・活用することを通して、地理情報や地図の活用に関する技能を身につけたか。また、仮説を検証し、まとめ、発表する等の技能を身につけたか。	○地図の有用性を理解し地図の活用に関する地理的スキルを理解し、身につけたか。 ○現代世界の諸事象を系統地理的に考察する方法と現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を理解し、身につけたか。 ○現代世界に関する地理的認識や地理的な見方・考え方を理解し、身につけたか
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>2. 資源と産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の貿易と経済圏 <p>3. 人口、村落・都市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口 ・人口問題 ・村落と都市 ・都市・住居問題 <p>4. 生活文化、民族・宗教</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活文化 ・民族と宗教 ・現代世界の国家 ・民族・領土問題 	<ul style="list-style-type: none"> □現代世界の貿易と経済圏について、世界貿易や経済圏の現状と課題や、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題を考察する。 □世界の人口について、世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を理解する。 □人口問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。 □村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を理解する。 □都市・住居問題について、世界の都市・住居問題を大観し、その要因と発生のしくみを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、都市・住居問題の解決には何が必要かを考察する。 □生活文化について、衣食住を取りあげ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について理解する。 □民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて理解する。 □現代世界の国家について、国境と領域のきまりやさまざまな国家の分類について理解する。 □民族・領土問題について、現代世界の民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察する。 	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p>2. 現代世界の諸地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジア ・東南アジア ・南アジア ・西アジアと中央アジア ・アフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア ・北アメリカ ・南アメリカ ・オセアニア ・現代世界と日本 ・マーク式問題演習 <p>・志望校問題演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> □地誌的に考察する様々な方法について理解し、各地域を例に地誌的考察を実践する。 □マーク式実戦問題に取り組むことにより、既習事項を復習するとともに、基礎力から応用への実戦力を養成する。 □志望校の過去問を中心とした記述式問題演習により実戦力を養成する。 	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 政治・経済

科目	学年	単位数	教科書	副教材
政治・経済	3年	3	政治・経済 (東京書籍)	最新図説現社(浜島書店) 新現代社会要点ノート(啓隆社)

科目の目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
学習活動	① 授業は、ワークノート学習を中心に教科書・資料集を用いて進めます。特にワークノートの空欄補充や補足説明が中心となります。 ② 復習により基本的知識の定着を図る必要があることから、単元ごとにまとめをしたり、問題集を解くなどして知識の定着を図ります。 ③ 書物やテレビなどにおいて、政治や経済に親しむことが、現代の社会を理解する近道になります。日頃より、新聞やテレビニュースにおいて社会的出来事に関心をもっておくことが大切です。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
	現代社会の基本的な問題について主体的に考察し、公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養おうとしている。	人間尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し、公正に判断することができる。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して社会的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した課程や結果を適切に判断し、表現することができる。	現代の政治、経済、国際関係について基本的な事柄、本質や特質などを理論的・体系的に理解し、基本的な概念や理論を知識として身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み	○課題への取り組み ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1章 現代の政治 1節 民主政治の基本原則 2節 日本国憲法の基本原則 3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題 5節 現代の国際政治	<input type="checkbox"/> 民主政治の特質としくみ、近代的な法の概念、世界の主な政治体制の違いを理解する。 <input type="checkbox"/> 日本国憲法の制定過程、具体的な事例に即しながら日本国憲法の特徴と問題点について理解する。 <input type="checkbox"/> 国会、内閣、裁判所の三権のはたらきを日本国憲法の理念との関係を踏まえて考察する。 <input type="checkbox"/> 選挙制度や政党について理解を深めていくなかで、将来の有権者としての行動はどうあるべきかを考える。 <input type="checkbox"/> 国際社会を形成する基盤となっている考え方を把握し、国際法や国際連合の組織としての機能などについて理解する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	第3章 現代社会の諸課題 1節 日本社会の諸課題 2節 国際社会の諸課題 ○ まとめと演習	<input type="checkbox"/> これからの日本を生きる一員として、現代日本が抱える諸課題について、資料をもとに考察し、表現する。 <input type="checkbox"/> 問題の所在を明確にしつつ、国際社会の政治と経済に関連させながら、諸課題についてどのように対処していけばよいかを考えることができる素養を身につける。 <input type="checkbox"/> グローバルな思考の中で、現代の日本を政治的・経済的にとらえたときに見えてくる課題について理解しており、未来に対して有用な提言ができる素養を身につける。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅱ	3年 文系	3	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	改訂版クリアー数学Ⅱ B (数研出版) 改訂版ニューアクション数学βⅡ B (東京書籍)

科目の目標	「式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。」という数学Ⅱの目標を問題演習を通して、より確実なものとする。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 ③クリアーやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付ける。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>【数学Ⅰ分野】</p> <p>第1章 数と式</p> <p>1 式の計算</p> <p>2 実数</p> <p>3 1次不等式</p> <p>4 集合と命題</p> <p>第2章 2次関数</p> <p>1 2次関数とグラフ</p> <p>2 2次関数の値の変化</p> <p>3 2次方程式と2次不等式</p> <p>第3章 図形と計量</p> <p>1 三角比</p> <p>2 三角形への応用</p> <p>第4章 データの分析</p> <p>【数学Ⅱ分野】</p> <p>第1章 式と証明</p> <p>1 式と計算</p> <p>2 等式・不等式の証明</p> <p>第2章 複素数と方程式</p> <p>1 複素数と2次方程式の解</p> <p>2 高次方程式</p> <p>第3章 図形と方程式</p> <p>1 点と直線</p> <p>2 円</p> <p>3 軌跡と領域</p> <p>第4章 三角関数</p> <p>1 三角関数</p> <p>2 加法定理</p> <p>第5章 指数関数と対数関数</p> <p>1 指数関数</p> <p>2 対数関数</p> <p>第6章 微分法と積分法</p> <p>1 微分係数と導関数</p> <p>2 関数の値の変化</p> <p>3 積分法</p> <p>(基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)</p>	<p><input type="checkbox"/> 絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 正四面体の体積の求め方を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 高次方程式が解aをもつことを、式を用いて表現できる。</p> <p><input type="checkbox"/> $F(x, y) + kG(x, y) = 0$の形を利用して、2直線の交点を通る直線の方程式を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 線形計画法では(x, y)の1次式$= k$とにおいて、この式が直線を表すことを利用できる。</p> <p><input type="checkbox"/> $-1 \leq \sin \theta \leq 1$などに注意して、変数のおき換えによって三角関数を含む関数の最大・最小を考察できる。</p> <p><input type="checkbox"/> $a^x > 0$に注意して、おき換えによって指数方程式・指数不等式を解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 3次関数のグラフとx軸とで囲まれた2つの部分の面積の和を求めることができる。</p>	<p>単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p>問題演習（センター形式）</p>	<p>(各分野の内容を確認するとともに、マークシート形式問題に慣れる。)</p>	<p>単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅲ（数学Ⅲa）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅲa	3年 理系	4 (計7)	高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	4プロセス数学Ⅲ（数研出版） 改訂版ニューアクション数学βⅡ B（東京書籍）

科目の目標	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 ③4プロセスやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第5章 微分法 1 導関数 2 いろいろな関数の導関数	<input type="checkbox"/> 微分係数、微分可能の定義と、その図形的意味を理解する。 <input type="checkbox"/> 導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の導関数、逆関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用することができる。 <input type="checkbox"/> 三角関数、対数関数、指数関数の導関数を理解し、それらを含む種々の関数の導関数を計算できる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第6章 微分法の応用 1 導関数の応用 2 いろいろな応用	<input type="checkbox"/> 種々の接線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 平均値の定理を利用して、不等式を証明する方法を理解している。 <input type="checkbox"/> 関数の増減、凹凸、変曲点、漸近線、定義域、 $x \rightarrow \pm\infty$ のときの状態などを調べてグラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 方程式 $f(x) = a$ の実数解の個数を、関数 $y = f(x)$ のグラフと直線 $y = a$ の共有点の個数に読み替えて考察できる。 <input type="checkbox"/> 直線上や平面上を運動する点の速度、速さ、加速度の定義を理解し、点の座標が与えられたときにそれらを求めることができる。	
	第7章 積分法とその応用 1 不定積分 2 定積分 3 積分法の応用	<input type="checkbox"/> 被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 上端、下端が x である定積分を x の関数とみることができる。 <input type="checkbox"/> 曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形で近似する考え方で、定積分と和の極限との関係を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 関数の大小とその関数の定積分の大小との関係について理解する。 <input type="checkbox"/> 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 <input type="checkbox"/> 立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 回転体の体積を求める方法を理解し、回転体の体積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき、点が動く道のりを定積分を用いて求めることができる。	
後期	問題演習 (数学Ⅲの復習を行う)	(入試に対応できる実力を養成する)	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅲ（数学Ⅲβ）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅲβ	3年 理系	3 (計7)	高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	4プロセス数学Ⅲ（数研出版） 改訂版ニューアクション数学βⅡ B（東京書籍）

科目の目標	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 ③4プロセスやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1章 複素数平面	<input type="checkbox"/> 複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解する。 <input type="checkbox"/> 複素数の和、差、実数倍、複素数平面における図形的意味を理解している。 <input type="checkbox"/> 極形式を利用することで、複素数の乗法、除法の図形的意味が明らかになることを理解している。 <input type="checkbox"/> 極形式の定義を理解し、複素数を極形式で表すことができる。 <input type="checkbox"/> ド・モアブルの定理を利用して、複素数の n 乗を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複素数の n 乗根の定義と図形的意味を理解し、極形式を利用して n 乗根を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複素数平面上の図形に現れる角や辺の長さの比が複素数を用いて考察できることを理解し、それを活用することができる。 <input type="checkbox"/> 複素数の方程式を満たす点全体について考察し、その意味を考えることや計算で求めることができる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2章 式と曲線 1 2次曲線 2 媒介変数表示と極座標	<input type="checkbox"/> 放物線の方程式から、概形をかき、焦点、準線を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 楕円の方程式から、概形をかき、焦点、長軸の長さ、短軸の長さを求めることができる。 <input type="checkbox"/> 双曲線の方程式から、概形をかき、焦点、頂点、漸近線を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 曲線 $F(x-p, y-q) = 0$ は、曲線 $F(x, y) = 0$ を平行移動したものであることが理解できる。 <input type="checkbox"/> 2次曲線を媒介変数表示で表せる。 <input type="checkbox"/> 直交座標で表された点の極座標を求めることができる。またその逆ができる。 <input type="checkbox"/> 直交座標で表された方程式を極方程式で表すことができる。またその逆ができる。 <input type="checkbox"/> 円や直線を極方程式で表すことができる。また、極方程式で表される曲線を図示することができる。	
後期	問題演習	(入試に対応できる実力を養成する)	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 A

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 A	3年 文系	1	改訂版 高等学校 数学 A (数研出版)	改訂版クリアー数学 I A (数研出版) 改訂版ニューアクション数学β I A (東京書籍)

科目の目標	「場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。」という数学 A の目標を問題演習を通して、より確実なものとする。			
学習活動	<p>①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。</p> <p>②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。</p> <p>③クリアーやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第2章 図形の性質 1 平面図形 2 空間図形 (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> 三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解する。 <input type="checkbox"/> チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比や図形の面積比を求める問題に活用できる。 <input type="checkbox"/> 三角形の存在条件や、辺と角の大小関係について理解する。 <input type="checkbox"/> 四角形が円に内接するための条件を利用して、図形の性質を証明できる。 <input type="checkbox"/> 円の接線と弦の作る角についての性質を利用して、角の大きさを求めることができる。 <input type="checkbox"/> 方べきの定理を理解する。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第1章 場合の数と確率 1 場合の数 2 確率 (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> 簡単な場合の数を、順列、円順列、重複順列に帰着させて求めることができる。 <input type="checkbox"/> 簡単な場合の数を、組合せに帰着させて求めることができる。 <input type="checkbox"/> 同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。 <input type="checkbox"/> 確率の性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。 <input type="checkbox"/> 独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 <input type="checkbox"/> 反復試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 <input type="checkbox"/> 条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。	
	第3章 整数の性質 1 約数の倍数 2 ユークリッドの互除法 3 整数の性質の活用 (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> 自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解が利用できることを理解している。 <input type="checkbox"/> 互いに素な整数の性質を利用して、簡単な命題を証明することができる。 <input type="checkbox"/> 整数をある正の整数で割った余りで分類して、簡単な整数の性質を証明することができる。 <input type="checkbox"/> 互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。 <input type="checkbox"/> n進法の数を10進法で、10進法の数をn進法で表すことができる。	
後期	問題演習 (センター形式)	(各分野の内容を確認するとともに、マークセンス形式問題に慣れる。)	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 B	3年 文系	2	改訂版 高等学校 数学 B (数研出版)	改訂版クリアー数学Ⅱ B (数研出版) 改訂版ニューアクション数学βⅡ B (東京書籍)

科目の目標	「ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。」という数学 B の目標を問題演習を通して、より確実なものとする。			
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 ③クリアーやニューアクションβから類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル、数列または確率分布と統計的な推測における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第3章 数列 1 等差数列と等比数列 2 いろいろな数列 3 漸化式と数学的帰納法 (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> 等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 数列の和を記号 Σ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。 <input type="checkbox"/> 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 <input type="checkbox"/> 群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 <input type="checkbox"/> 漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 数学的帰納法を用いて等式、不等式を証明できる。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第1章 平面上のベクトル 1 ベクトルとその演算 2 ベクトルと平面図形 (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> ベクトルの加法、減法、実数倍の計算の仕組みを理解する。 <input type="checkbox"/> ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。 <input type="checkbox"/> 線分の内分点、外分点を位置ベクトルで表す公式を理解する。 <input type="checkbox"/> 3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 <input type="checkbox"/> 線分の長さ、垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。 <input type="checkbox"/> 直線上の点を位置ベクトルで考察し、直線の方程式と関連付けることができる。	
	第2章 空間のベクトル (基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)	<input type="checkbox"/> ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。 <input type="checkbox"/> 空間のベクトルを与えられた3つのベクトルで表すことができる。 <input type="checkbox"/> ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。 <input type="checkbox"/> 3点で定まる平面上に点Pがあることを、ベクトルで表現して利用できる。	
後期	問題演習 (センター形式)	(各分野の内容を確認するとともに、マークセンス形式問題に慣れる。)	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理基礎（3年文系）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理基礎	3年 文系	2	考える物理基礎 (啓林館)	実験プリント 問題プリント

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
学習活動	<p>◆ 1年次に学習した物理基礎、2年次に取り組んだ物理課題研究の内容をもとに、物理現象についてより深く理解するために、既習の学習内容の講義と観察実験、問題演習を行います。</p> <p>◆ 授業は実験書やノート、プリントを用いて、観察や実験などを通して、科学的に探究する能力と態度を身につけることを目指しています。</p> <p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとります。</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。</p> <p>◆ 様々な物理現象に興味を持ち、なぜだろうという疑問、知りたいと思う気持ちを大切にして、授業に臨みましょう。</p> <p>◆ 日頃より、新聞・テレビニュースなどにおいて、自然科学的出来事に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な物理現象について関心をもち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。 観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。 考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

指導と評価の年間計画 物理

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理	3年 理系	5	物理 (数研出版)	らくらくマスター物理基礎・物理(河合出版) ステップアップノート物理(啓林館) 物理図録(数研出版)

科目の目標	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>①授業前に教科書や図録を見ておくなど、能動的に授業準備をすることが理解を助けます。</p> <p>②【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとります。</p> <p>③【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。</p> <p>④【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。</p> <p>⑤【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。</p> <p>⑥【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について自分の理解度を確認しよう。</p> <p>⑦学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。(復習に役立つ問題プリントなどの課題を与えることもあります。)</p> <p>⑧授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な物理現象について関心をもち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○実験レポート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第3編 波 第1章 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方 第3章 光	<input type="checkbox"/> 波の表し方と横波・縦波について観察を通して理解する。 <input type="checkbox"/> 音の様々な現象について、波の観点から観察、実験を通して理解する。 <input type="checkbox"/> 光の様々な現象について波の観点から観察、実験を通して理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑦をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第4編 電気と磁気 第1章 電場 第2章 電流 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波	<input type="checkbox"/> 電気を理解するために必要な電場という概念について理解する。 <input type="checkbox"/> 電流がつくる磁場と電流が磁場から受ける力の性質を理解する。 <input type="checkbox"/> 電磁誘導の法則を理解する。 <input type="checkbox"/> 交流回路におけるリアクタンスなど基本的な知識を身につける。	
後期	第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核	<input type="checkbox"/> 電子とX線の発見や、波動と粒子の二重性について科学史的な側面を踏まえて学習し、基本的な知識を身につける。 <input type="checkbox"/> 原子の構造や電子の軌道について科学史的な側面を踏まえて学習し、基本的な知識を身につける。 <input type="checkbox"/> 放射線の性質や核反応について、科学的に正しく理解する。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑦をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学基礎（3年文系）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学基礎 (文系)	3年	2	改訂 化学基礎 (第一学習社)	スクエア最新図説化学 (第一学習社)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育むとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。			
学習活動	<p>① 自らが主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組めます。</p> <p>② 低学年で、すでに学習しているにもかかわらず、疑問点は多いはず。早めに教師や友だちに質問して解決・整理します。</p> <p>③ 配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、学力の定着や向上に励みます。</p> <p>※ 教科書や図説を利用しながら、問題演習にもチャレンジしよう。</p> <p>※ テスト直しのノート(「訂正ノート」)が、あなたの参考書になっているはず。オリジナルのノートに仕上げよう。</p> <p>※ 課題や小テスト等は、おろそかにせず、普段から基礎固めを丁寧にやっつけていこう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察、実験の技能	知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）
前期	<p>■第1章 物質の構成</p> <p>第1節 物質の成分と構成元素</p> <p>第2節 原子の構造と元素の周期表</p> <p>第3節 物質と化学結合</p> <p>■第2章 物質の変化</p> <p>第1節 物質と化学反応式</p> <p>第2節 酸と塩基の反応</p> <p>第3節 酸化還元反応</p>	<p><input type="checkbox"/> 混合物と純物質、化合物と単体、同素体について問題演習を通じて理解を深める</p> <p><input type="checkbox"/> 物質の三態変化・原子の構造・元素の周期律を理解し、問題演習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 共有結合の結晶・分子結晶・金属結晶など、化学結合の種類によって、物質を分類できることを問題演習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 物質とその応用について、問題演習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 物質の溶解と濃度について演習する。</p> <p><input type="checkbox"/> 化学反応における量的関係について、観察・実験を通して探究し、問題演習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義、酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係、中和と塩について、問題演習を通じて理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向・酸化還元反応について、問題演習を通じて理解を深める。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこなう。単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p>■問題演習</p>	<p><input type="checkbox"/> 教科書の全範囲について、問題演習をおこなうことにより、科学的な事物・現象について理解を深める。</p> <p><input type="checkbox"/> センター入試対策問題演習</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこなう。単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学	3年	5	改訂 化学 (第一学習社)	スクエア最新図説化学 (第一学習社)

科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>① 自らが主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組めます。</p> <p>② 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめよう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問します。</p> <p>③ 配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をします。</p> <p>※ 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨もう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしよう。</p> <p>※ ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用しよう。</p> <p>※ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしよう。</p> <p>※ 化学的な事物・現象に対する探究心を高めることができるよう、目的意識をもって観察や実験を行い、化学的に探究する能力と態度を育もう。</p> <p>※ 化学の基本的な概念や原理・法則に対する理解を深め、科学的な自然観を養おう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察、実験の技能	知識・理解
	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>■ 第Ⅱ章 物質の変化と平衡</p> <p>第1節 物質とエネルギー</p> <p>第2節 電池・電気分解</p> <p>第3節 化学反応の速さ</p> <p>第4節 化学平衡</p> <p>第5節 電離平衡</p>	<p><input type="checkbox"/> 可逆反応と不可逆反応、および化学平衡の意味と平衡定数の意味を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> ルシャトリエの原理を理解し、ルシャトリエの原理の応用例としてアンモニアの製法を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 水の電離平衡、弱酸・弱塩基の電離平衡について理解する。pHについての理解を深め、平衡定数の応用を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 塩の性質とその反応について、化学平衡の概念から理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 緩衝液とその作用を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 溶解度積を理解し、その応用を理解する。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

指導と評価の年間計画 生物基礎

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物基礎	3年 (文系)	2	生物基礎 (数研出版)	スクエア最新図説生物neo (第一学習社) C T 試験対策チェック&演習生物基礎 (数研出版) C T 試験対策問題集生物基礎 (啓林館)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
学習活動	<p>① 授業は単元ごとに課題、問いを設定し、探求していく活動を中心におこないます。</p> <p>② 整理ノートの空欄補充を教科書・図表を活用しておこない予習、復習をします。</p> <p>③ 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり、問題集を解くなどして知識の定着を図ります。</p> <p>※ 様々な生物の行動や機能などに興味を持ち、なぜだろうという疑問、知りたいと思う気持ちを大切にしてほしいと思います。</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースなどにおいて、自然科学的出来事に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な生命現象について関心をもち、それを生物学的に探求することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。 実験結果を適切に判断し対応できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。 考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な生命現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 (実験・実習の記録) ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 (実験・実習の記録) ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 (実験・実習の記録) ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	<input type="checkbox"/> 生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解する。 <input type="checkbox"/> 生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを復習する。 <input type="checkbox"/> 酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを復習する。 <input type="checkbox"/> 遺伝情報を担う物質であるDNAについて、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。 <input type="checkbox"/> 転写と翻訳の概要から生命現象において重要なタンパク質の合成について復習する <input type="checkbox"/> 遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて復習する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境	<input type="checkbox"/> 動物の体内環境（体液）がいかにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみがはたらき、どのように調節が行われているのか、循環系、腎臓と肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について復習する。 <input type="checkbox"/> 私たち自身のからだにかかわる内容について身近な話題と関連づけながら理解する。	
後期	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 第5章 生態系とその保全	<input type="checkbox"/> 植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて復習する。 <input type="checkbox"/> 地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを、世界と日本のバイオームの比較で復習する。 <input type="checkbox"/> 生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて復習する。 <input type="checkbox"/> 生態系はそのバランスが保たれていること、人類は生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら復習し、自然環境を保全することが大切であることを理解する。 <input type="checkbox"/> 問題演習を通して、生物基礎の学習内容の定着を図り、大学入試に対応できる力を養う。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	問題演習による総復習		

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生 物

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物	3年	5	生物 (数研出版)	スクエア最新図説生物neo (第一学習社) リードα生物基礎+生物 (第一学習社) 生物の必修整理ノート (文英堂)

科目の目標	生物や生物現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
学習活動	<p>① 授業は単元ごとに課題、問いを設定し、探求していく活動を中心におこないます。</p> <p>② 整理ノートの空欄補充を教科書・図表を活用しておこない予習、復習をします。</p> <p>③ 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとにまとめをしたり、問題集を解くなどして知識の定着を図ります。</p> <p>※ 様々な生物の行動や機能などに興味を持ち、なぜだろうという疑問、知りたいと思う気持ちを大切にしてほしいと思います。</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースなどにおいて、自然科学的出来事に関心を持っておきましょう。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
	様々な生命現象について関心をもち、それを生物学的に探求することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。 実験結果を適切に判断し対応できる。	実験に必要な器具の操作に習熟し、実験結果をグラフなどを用いて適切に表現できる。 考察した内容を科学的な表現で記述できる。	様々な生命現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 (実験・実習の記録) ○ワークシート ○課題への取組	○授業状況の観察 (実験・実習の記録) ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 (実験・実習の記録) ○ワークシート ○課題への取組	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第2編 生殖と発生 第4章 生殖と発生 (第4節～) 第3編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答	<input type="checkbox"/> 動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程、細胞の分化や形態形成のしくみについて誘導現象を中心に理解する。 <input type="checkbox"/> 前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について理解する。 <input type="checkbox"/> 植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学び、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解する。 <input type="checkbox"/> ニューロンの基本的な構造とそのはたらきを理解する。 <input type="checkbox"/> 植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する。 <input type="checkbox"/> 環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを理解する。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化 第9章 生物の系統 問題演習による総復習	<input type="checkbox"/> 個体群や生物群集について、その特徴を理解する。 <input type="checkbox"/> 生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、個々の個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 <input type="checkbox"/> いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について理解する。 <input type="checkbox"/> 生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識する。 <input type="checkbox"/> 生命の起源および生物の変遷を理解する <input type="checkbox"/> 生命の誕生や生物の変遷は、地球環境の変化と密接に関係していることを理解する <input type="checkbox"/> 生物の進化のしくみ、分子進化の概念や種分化のしくみについて理解する。 <input type="checkbox"/> 生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解する。 <input type="checkbox"/> DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについて学び、個々の分類群については、その概要を理解する。 <input type="checkbox"/> 問題演習を通して生物の学習内容の定着を図り、大学入試に対応できる力を養う。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 体育（3年）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
体育	3年	文系3 理系2	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)

科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。			
学習活動	①各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を身に付けます。 ②各種の運動を適切に行うことによって自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図りたくましい心身を養います。 ③運動における競争や協働の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度、また、健康・安全に留意して運動することができる態度を身に付けます。			
評価の観点 及び 評価規準	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	知識・理解
	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、公正・協力・責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動をしようとする。	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○グループでの意見交換 ○課題への取組	○授業状況の観察 ○定期考査	○授業状況の観察 ○パフォーマンステスト	○定期考査 ○感想レポート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	評価方法
前期	オリエンテーション 体づくり運動 陸上競技 バレーボール（兼球技大会練習） 選択制授業①（以下から1つ） ・陸上競技 ・器械運動（マット運動） ・ダンス	（通年で） <input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。 <input type="checkbox"/> グループノートを用いて、授業計画を綿密に立てることができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこなない、4つの観点について評価をおこなう。
後期	選択制授業②（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・バスケットボール ・ソフトボール ・バレーボール ・テニス ・陸上競技 （体育館） ・バドミントン ・卓球	<input type="checkbox"/> 足のリズムを合わせて、大きな声を出し、列を揃えて、集団走ができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、グループで協力して活動することができる。 <input type="checkbox"/> 意欲的に練習に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> グループ全員の技能上達を目指して、互いにアドバイスをし合うことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	
前期末	体育理論 ・生涯スポーツの見方、考え方 ・ライフステージに応じたスポーツ ・日本のスポーツ振興 ・スポーツと環境	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> グループ内でしっかり発言できる。 <input type="checkbox"/> グループ内で他の意見を聞き、自分の考えを深めることができる。 <input type="checkbox"/> グループ内の意見をまとめて、全体へ向けて発表できる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。	「学習活動」の①をおこなない、4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 音楽Ⅱ（3年）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽Ⅱ	3年	3	MOUSA 2 (教育芸術社)	なし

科目の目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽方面での進学希望者を対象とした講座です。実技試験に対応した、副専門的な内容（新曲視唱・聴音・楽典）を学習します。 ・表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の分野から、受講者に応じた学習活動を行います。 			
評価の観点 及び 評価規準	音楽への関心・意欲・ 態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○鑑賞レポート	○授業状況の観察 ○実技テスト ○作品提出 ○演奏発表	○授業状況の観察 ○実技テスト ○筆記テスト ○演奏発表	○授業状況の観察 ○鑑賞レポート ○筆記テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）
右記の内容を年間を通して学習する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> ソルフエージュ 新曲視唱 日本歌曲 イタリア歌曲 ■ 器楽 <ul style="list-style-type: none"> 選択曲 ■ 創作 <ul style="list-style-type: none"> 楽典 聴音 ■ 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> 西洋音楽史 日本音楽史 様々な時代・様式の楽曲演奏者による表現の比較 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各種の音程を正しく把握し、美しい発声で歌唱する。 <input type="checkbox"/> 新曲視唱の学習を通してフレージングなど根拠ある表現力を高め、各専門領域の表現にいかす。 <input type="checkbox"/> 言葉と音楽の関わりをもたせ、美しい表現を工夫する。 <input type="checkbox"/> 専門領域の楽器(または声楽)による表現を工夫し、確かな技術をもって演奏する。 <input type="checkbox"/> 音楽を形づくっている要素を理解し、鑑賞・歌唱・器楽の学習に活用する。 <input type="checkbox"/> 楽譜の仕組みを理解し、正しい記譜の仕方を学ぶ。 <input type="checkbox"/> 旋律および和声の聴き取りを行い、音高やリズムに対する感覚を養う。 <input type="checkbox"/> 音楽の歴史を学び、歴史的背景や作曲家などについて理解した上で、表現活動に繋げることができる。 <input type="checkbox"/> 各時代や楽曲様式を特徴付ける楽曲を鑑賞し、理解を深める。また、客観的に鑑賞する力を高める。 	歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。作品の創作にも取り組む。年間を通じて、4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
美術Ⅱ	3年	3	高校美術 2 日本文教出版	なし

科目の目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に必要な実技を身につける科目です。 ・学習内容を一体的・総合的に扱ったり、関連付けて扱うなど柔軟に学びます。 			
評価の観点 及び 評価規準	美術への関心・意欲・ 態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	日常生活における美術やデザインの持つ役割や美術文化について幅広く理解し、その価値を考え、作品のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■デッサン1 ・幾何形体 ■デッサン2 ・手 ■デッサン3 ・自画像 ■デッサン4 ・石膏像 	<input type="checkbox"/> 立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。(学習内容にかかわらず共通)	様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■進路に関するコースで選択 ・水彩画、油彩画、色彩デザイン、デッサン等より選択して制作 	<input type="checkbox"/> 立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。(学習内容にかかわらず共通)	様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 書道Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
書道Ⅱ	3年 (文系)	3	書Ⅱ(光村図書)	なし

科目の目標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・書道Ⅰで学んだ知識と技能を活かして、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の3つの分野についてより深く学びます。 ・授業は、臨書を中心に行います。「臨書」とは、すぐれた古典作品を手本にして書き、その技法を学ぶことです。臨書を通して、用筆・運筆、字形や作品全体の構成など、書の基礎的な力と、幅広い表現技法を身に付けます。そして、臨書で身に付けた力を活かして創作にも取り組んでいきます。 ・作品を「書く」ことだけでなく、「みる」ことも大切です。さまざまな書作品の鑑賞を通して、その作品のよさや美しさについて考え、味わい、自分の表現に活かしていきましょう。 			
評価の観点 及び 評価規準	書への関心・意欲・ 態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の 技能	鑑賞の能力
	書を愛好し、書写能力を高め、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行いその喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、書の美しさを感じ取るとともに、自己の感興に応じた表現ができるよう工夫する。	基本的な用筆法・運筆法を身に付けて、その場に応じた表現ができる。	古典作品や自他の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを深く味わうことができる。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字の書 ■ 仮名の書 ■ 漢字仮名交じりの書 <ul style="list-style-type: none"> ・古典の臨書 ・創作 ・鑑賞 ・理論 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 書体の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> それぞれの古典について特徴を捉え、臨書表現の工夫ができる。 <input type="checkbox"/> 自己の意図に基づいて、撰文し、字形の構成などを工夫して表現することができる。 <input type="checkbox"/> 日本書道史、中国書道史について理解することができる。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字の書 ■ 仮名の書 ■ 漢字仮名交じりの書 <ul style="list-style-type: none"> ・古典の臨書 ・創作 ・鑑賞 ・理論 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 書体の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> それぞれの古典について特徴を捉え、臨書表現の工夫ができる。 <input type="checkbox"/> 自己の意図に基づいて、撰文し、字形の構成などを工夫して表現することができる。 <input type="checkbox"/> 日本書道史、中国書道史について理解することができる。 	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

笠岡高等学校 2019年度 CAN-DO リスト

【参考資料】 CEFR-J 京外国語大学 投野由紀夫 研究室

①卒業時に身につけさせたい英語力

Reading	社会性のある話題の英文を初見で毎分120語程度の速さで読み、概要を理解することができる。
Listening	様々な話題の比較的長い会話やモノローグを聞き、毎分140語程度の速さではっきりとした言葉で話されれば概要を理解することができる。
Writing	社会性のある話題などの与えられたトピックについて、自分の意見や感想を100語程度の英語で書くことができる。
Speaking	社会性のある話題などの与えられたトピックについて、まとまった考えや感想を英語で話すことができる。

②高校3年間の到達目標

技能	段階	入学前	1年	2年	3年
Reading		簡単な語を用いて書かれた、興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真を参考にしながら理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写・場所・日常生活・文化などの、説明文を理解することができる。	簡単な英語で表現されている実用的・具体的で、内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。
		簡単な語を用いて書かれた、挿絵のある短い物語を理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた短い物語や伝記などを理解することができる。	日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。	構成がはっきりとした物語の筋を理解することができ、最も重要なエピソードや出来事は何か、それらに関して重要な事は何かを認識することができる。
Listening		ゆっくりはっきりと話されれば、身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	ゆっくりはっきりと放送されれば、簡潔なアナウンスを理解することができる。	ゆっくりはっきりと指示されれば、一連の行動を、指示通りに行動することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、理解することができる。
		簡単な用をたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	明確で具体的な事実を、はっきりとした発音で指示されれば、要点を理解することができる。	視覚補助のある作業の指示を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞いて理解することができる。	自分の周りで話されている少し長めの議論でも、はっきりとした発音であれば、その要点を理解することができる。
Writing		自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	日常的・個人的な内容であれば、簡単な英語で書くことができる。	身の回りの出来事や自分に関係することについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	自分に関わりのあることを、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。
		趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。	文と文を簡単な接続詞でつなぎ、基礎的・具体的な語彙、簡単な句や文を使った簡単な英語で、まとまりのある文章を書くことができる。	聞いたり読んだりした説明文や物語であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。	身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、筋道を立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。
Speaking		身近なトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。	つなぎ言葉や基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。	簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、自分の意見を伝えたり、物や人を比べたりすることができる。	身近なトピックについて、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。
		基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。	視覚的補助を利用しながら、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。	予測できる日常的な状況ならば、さまざまな語や表現を用いてやり取りができる。	個人的に関心のある具体的なトピックについて、簡単な英語を多様に用いて、会話を続けることができる。
		前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、複数の文で意見を言うことができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の生活に直接関連のあるトピックについて、短いスピーチをすることができる。	使える語句や表現を繋いで、自分の考えを順序だて、話を広げながら、ある程度詳しく語るすることができる。
		前もって発話することを用意した上で、日常生活に関する簡単な事実を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で描写できる。	視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な句や文を使って、身近なトピックについて短い話をすることができる。	一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由を挙げて短く述べるることができる。	身近なトピックや自分に関心のある事柄について、自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手にわかりやすく語るすることができる。
CEFR-J		A1.3	A2.1	A2.2	B1.1
数値目標			GTEC TOTAL SCORE 440	GTEC TOTAL SCORE 480	GTEC TOTAL SCORE 500
資格目標		英検3級	英検準2級	英検準2級～2級	英検2級
履修科目			コミュニケーション英語Ⅰ、英語表現Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅱ

※3年次の数値目標はGTEC受験時(6月)の数値です。

指導と評価の年間計画 コミュニケーション英語Ⅲ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
コミュニケーション英語Ⅲ (英語ⅢA・C・D)	3年	文系 5 理系 4	MY WAY English Communication Ⅲ (三省堂)	・MY WAY English Communication Ⅲ WorkBook(三省堂) ・ユメタン ①(三省堂) ・スーパーアンカー英和辞典(学研)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。			
学習活動	<p>■教科書に沿って学習し、読む・聞く・話す・書く能力をバランスよく伸ばします。</p> <p>■語彙、文章レベルともコミュニケーション英語Ⅱに比べ、高度な内容を学習します。</p> <p>①新出単語・イディオムを学習し、日本語から英語への自動化を図る。</p> <p>②文法問題に取り組み、その文法事項を使って自分の意見を述べる。 ※授業の最初にリスニング、語彙or文法の小テスト(週1回)を行います。</p> <p>③ディスコースマーカーや文構造に注意しながら、論説文、説明・物語文などを読み、内容や情報を整理し、理解を確認する。 ※復習により知識の定着を図る必要があることから、Lessonごとに復習テストに取り組んだり、ワークブックを解いて応用力をつけていきます。</p> <p>④本文の大意を把握し、英語で要約と感想を述べる。</p> <p>⑤学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどの主題について、話し合ったり、各自の考えや説明を文章として簡潔に書く。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心 を持ち、積極的に言語 活動を行い、コミュニケ ーションを図ろうとする。	英語で話したり書いた りして、情報や考えなど を適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだり して、情報や考えなどを 的確に理解している。	英語やその運用につい ての知識を身に付けて いるとともに、言語の背 景にある文化などを理 解している。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の 観察 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題 考査

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	Unit 1 Reading Skills 1 Greetings in the World 2 The Toughest Creatures 3 A Digital Detox 4 An Architect Shigeru Ban 5 [G] Laughter Therapists [T] Secrets of Janken 6 [G] Wild Raccoon Dogs in Tokyo [T] The Language Café 7 [G] The High Line [T] How Fast Can Humans Run? 8 [G] Shortened Words in Texting [T] Plant Factories 9 [G] Neighbors' Day [T] Bicycle Sharing 10 [G] Thirty-Six Views of the Eiffel Tower [T] Blue Roses 11 [G] Join the ABC Tennis Club! [T] Kyoto One-Day Tour	<input type="checkbox"/> 世界のさまざまなあいさつとそれに込められた意味を知る。 <input type="checkbox"/> クマムシの特徴と生態を知る。 <input type="checkbox"/> デジタルデトックスという取り組みの意義を知る。 <input type="checkbox"/> 紙の建築を通じた被災地支援のあり方について知る。 <input type="checkbox"/> 患者の回復に貢献する笑い療法士の活動について知る。 <input type="checkbox"/> じゃんけんに勝つための秘訣とその理由について知る。 <input type="checkbox"/> 東京都心に生息する野生のタヌキの生態について知る。 <input type="checkbox"/> スウェーデンにある言語を楽しむためのカフェについて知る。 <input type="checkbox"/> NYの廃線跡に建設されたハイライン公園について知る。 <input type="checkbox"/> 男子100m走の歴代記録の推移について学ぶ。 <input type="checkbox"/> 英語のメールにおける省略語の存在とその賛否について知る。 <input type="checkbox"/> 植物を生産する工場について知る。 <input type="checkbox"/> 都市における住民の交流を深める「隣人の日」の意義を知る。 <input type="checkbox"/> 都市で広まる自転車シェアリングのシステムについて知る。 <input type="checkbox"/> 浮世絵に影響を受けて生まれた西洋芸術について知る。 <input type="checkbox"/> 遺伝子組み換え技術により誕生した青いバラについて知る。 <input type="checkbox"/> テニススクールの広告を読み取る。 <input type="checkbox"/> バスツアーの広告を読み取る。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	Unit 2 L1 Narrow Boats in Britain L2 A Mayor of Machu Picchu Village L3 iPS Cells L4 Roman Baths L5 Artificial Intelligence	<input type="checkbox"/> 英国におけるナローボートの役割の変遷と、現代での人気の理由を知る。 <input type="checkbox"/> ペルーのマチュピチュ村の村長になった野内与吉の生き方を知る。 <input type="checkbox"/> iPS細胞の仕組みとそのはたらき、可能性を知る。 <input type="checkbox"/> 古代ローマの風呂文化を知り、その果たしていた役割を考える。 <input type="checkbox"/> 人工知能の進化について知り、社会に与える影響について考える。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後 期	L6 Digital Books vs. Printed Books L7 Buckwheat around the World L8 A Message from Small Creatures	<input type="checkbox"/> 電子書籍と紙の書籍についての討論を読み、双方の特徴と、討論における論の展開方法を学ぶ。 <input type="checkbox"/> 各国におけるソバの生産と消費について知り、その食文化を学ぶ。 <input type="checkbox"/> ミツバチとスズメの減少から考えられる、環境の変化とその影響を知る。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	Unit 3 L9 Aung San Suu Kyi L10 The Wonders of Memory L11 A Moment Makes a Great Difference L12 Media Literacy L13 Obama's Speech in Hiroshima L14 A Variety of "Englises" R1 A Special Moment in the Third Period R2 Rules are Rules?	<input type="checkbox"/> アウンサンスーチーさんの生き方を通じて、信念を貫くことの尊さを知る。 <input type="checkbox"/> 記憶のメカニズムと、記憶力を高めるための方法を学ぶ。 <input type="checkbox"/> 現代における「一瞬」の重みを知り、加速する現代社会について考える。 <input type="checkbox"/> メディアリテラシーについて知り、メディアとの関わり方を学ぶ。 <input type="checkbox"/> オバマ元大統領が広島で行った演説の内容を知る。 <input type="checkbox"/> 現代における英語の多様性を学ぶ。 <input type="checkbox"/> 日本の高校を舞台とした物語を鑑賞する。 <input type="checkbox"/> 20世紀初頭のアメリカを舞台とした物語を鑑賞する。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語表現Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
英語表現Ⅱ (英語ⅡB)	3年	2	be English Expression Ⅱ (いづな書店)	・be English Expression Ⅱ Workbook (いづな書店) ・総合英語 be(いづな書店) ・未来につながる英作standard(ラーズ) ・入試必携英作文Write to the Point(数研出版)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。			
学習活動	<p>■教科書に沿って学習し、読む・聞く・話す・書く能力をバランスよく伸ばします。</p> <p>■英語表現Ⅱの内容を復習しながらより高度な内容を学習します。</p> <p>①新出単語・イディオムを学習し、日本語から英語への自動化を図る。</p> <p>②文法問題に取り組み、その文法事項を使って自分の意見を述べる。 ※授業でリスニング演習や、例文の小テストを行います。</p> <p>③ディスコースマーカ―や文構造に注意しながら、論説文、説明・物語文などを読み、内容や情報を整理し、理解を確認する。 ※知識の定着や運用を図るためワークブックや補助プリントを用いて応用力をつけていきます。</p> <p>④本文の大意を把握し、英語で要約と感想を述べる。</p> <p>⑤学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどの主題について、話し合ったり、各自の考えや説明を文章として簡潔に書く。</p>			
評価の観点 及び 評価規準	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろう。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
評価方法	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノートの点検 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査、課題考査	○授業態度の観察 ○授業ノートの点検 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題考査	○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○小テスト ○課題の点検 ○定期考査、課題考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	文の骨格をつくる主語（名詞）と動詞の用法の復習 ■ Lesson 1 時の表し方 ■ Lesson 2 動詞と文の構造 ■ Lesson 3 助動詞 ■ Lesson 4 名詞と限定詞 ■ Lesson 5 代名詞 ■ Lesson 6 名詞句と名詞 名詞・動詞に色をそえる形容詞・副詞の用法の復習 ■ Lesson 7 形容詞 ■ Lesson 8 形容詞句 ■ Lesson 9 形容詞節（関係詞節） ■ Lesson 10 副詞 ■ Lesson 11 副詞句 ■ Lesson 12 副詞節	<input type="checkbox"/> 文法の総復習をする。 <input type="checkbox"/> 各課で学習する文法や表現を理解し、リスニング及び口頭練習で定着していく。 <input type="checkbox"/> 与えられた日本語を、学んだ表現を含む英語の文で書く／話すことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 前課で学んだ表現を、文脈の中で用いることができるようにする。 <input type="checkbox"/> 自分の考えや経験を、学んだ表現を用いてまとめた英語で表現することができるようにする。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこなひ、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
後期	文と文のつなぎ方の復習 ■ Lesson 13 比較 ■ Lesson 14 仮定法 ■ Lesson 15 複文での動詞の使い方 英語らしい文の作り方の整理 ■ Lesson 16 「言う」「見る」「聞く」の表現 ■ Lesson 17 認識の表現 ■ Lesson 18 許可・提案・勧誘・依頼・要望の表現 ■ Lesson 19 存在や変化の表現 ■ Lesson 20 「させる」「される」の表現 ■ Lesson 21 日本語とは違う表現方法		単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこなひ、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。
	入試問題演習	第3回定期考査考査以降は、問題演習に取り組み、センター試験および2次試験などの入試に対応できる英語表現能力を身につける。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 子どもの発達と保育

科目	学年	単位数	教科書	副教材
子どもの発達と保育	3年	2	子どもの発達と保育 育つ育てる育ち合う (教育図書)	/

科目の目標	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・保育のさまざまな分野が主体的に学べるよう題材を設定しています。授業時間の約半分が講義、残りが実習・演習などの実践的・体験的な学習です。 ・主にワークシートを使って学習します。ファイルに保存し、提出をします。 ※友達とも積極的に意見交換をしましょう。人の価値観や様々なライフスタイルに関心を持つことも大切です。 ※実際に乳幼児に接したり、保育者の話を聞いたりすることは授業内容に理解を深めてくれます。実習には意識を持って取り組み、ボランティアなどには積極的に参加しましょう。 ※日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 			
評価の観点及び評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	子どもの発達や子育て支援について関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけている。	子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身につけている。	子どもと触れ合ったり、子育て支援を行っている人々と交流を図ったりする学習を通して、子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート（提出） ○実習・課題への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート（考察） ○実習・演習への取組 ○発表 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○作品 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	第1章 子どもの発達の特徴 ①生涯発達における乳幼児期の重要性 ②発達と環境 ③発達観・児童観とは 第2章 子どもの発達過程 ①身体発育と運動機能の発達 ②乳幼児期からの発育 ③乳幼児期の発達の特徴 ④人間関係の発達 ⑤心の発達 第3章 子どもの生活 ①子どもの健康と生活 ②子どもの食事	<input type="checkbox"/> 生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。人との「かかわり」の大切さを知る。 <input type="checkbox"/> 保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在である子どもための社会環境や法律制度のしくみについて理解する。 <input type="checkbox"/> 身体発達と運動機能の発達には一定の順序と方向性があることを知る。 <input type="checkbox"/> 乳幼児期の生理的特徴について知る。 <input type="checkbox"/> 愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。安全基地としての親の重要性について理解する。 <input type="checkbox"/> 子どもの育つ力と発達段階を知り、人生の初期における親・家族や周囲の人々のかかわりの大切さを学ぶ。 <input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣と社会的な生活習慣について理解し、その具体的な内容について知る。 <input type="checkbox"/> 食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割を持つことを認識する。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習（沐浴、幼児食など）などをおこない、4つの観点についての評価をおこなう。
後期	③子どもの衣服 ④子どもの遊びと生活 ⑤子どもの健康管理 第4章 子どもの保育 ①保育の意義と目標 ②保育の方法 ③保育の環境 第5章 子どもの福祉と子育て支援 ①子どもの福祉 ②子育て支援	<input type="checkbox"/> 適した衣服について知り、安全な衣生活について考える。おむつの使い方を理解する。 <input type="checkbox"/> 子どもの情操・感性・知的探究心などを豊かにするための児童文化財について知る。 <input type="checkbox"/> 子どもの健康を守るための保育者の役割を理解する。住まいに潜む危険について理解し、身近な場所の危険について考える。 <input type="checkbox"/> 人間形成の基礎を培う乳幼児期の大切さと保育の意義について考える。 <input type="checkbox"/> 発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 家庭での保育と集団保育のそれぞれの意義を学び、課題について考える。 <input type="checkbox"/> 子どもが育つ現在の環境にはどのような問題点があるかを知る。 <input type="checkbox"/> 母親の育児負担を減らすために何ができるか、周囲の人間と社会の両面から考える。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習（保育、おもちゃ作りなど）などをおこない、4つの観点についての評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。